



調査結果受取までに 検証・改善サイクルを回す取組を考えましょう!

©岡山県「ももっち」

前号のNo.2「年間を見通して各種調査等の活用の仕方考えましょう!」では、日々の授業・授業研究と各種調査を意図的に関連付け、検証・改善するサイクルをより短いサイクルで回す視点を紹介しました。

今号では、調査結果受取までの取組例を①教師視点、②児童生徒視点で紹介します。取組例を参考に**検証・改善サイクルをどのように回すことができるか校内で話し合ってみませんか。**

自校採点から
授業改善までのイメージ

自校採点

把握・分析

日々の
授業改善

①教師視点の〔例1〕 調査問題全体の特徴を把握し、授業改善につなげる

自校採点ツールを活用して、当該学年の**各教科全体の特徴を把握**します。特定の領域に課題があることや正答率よりも誤答率が高い問題があること、無解答率が高い問題があることなどを把握するとともに、その要因を分析し、1学期中の授業改善につなげます。



分担して学校全体で採点をしましょう。



学力向上

正答の子どもよりも誤答の子どもの方が多い問題がありますね。用語の意味理解に課題があるのかもしれない。



研究主任

授業の中で子どもに用語の意味を意図的に尋ねる場面を設定し、単元末に定着状況を確認しましょう。

①教師視点の〔例2〕 昨年度課題があった問題の変容を把握し、授業改善につなげる

昨年度の調査問題や確認テスト等で**課題が見られた特定の問題の改善状況**を検証します。今年度の全国及び県調査の中から対応する問題を抽出した後、自校採点し、昨年度の結果と比較することで取組の効果を確かめます。その際、何が改善につながった(つながらなかった)のか要因を分析することが大切です。



学力向上

①昨年度課題だった「図形」領域は自校採点結果によると改善が見られましたね。**改善につながった要因は何でしょうか。**

③初任者にも取組が分かるように具体的に伝えることが大切ではないでしょうか。

⑤学校全体で組織的に取り組むことで成果に結びつくことが実感できましたね。

②子どもが用語を正確に理解できるよう意図的に取り組んだ結果ではないですか。

④そうですね。用語理解を進めるに当たって、教具を使って操作する機会を設定しましたね。これを「共通実践」として今年度も継続したいですね。

⑥今年度の問題についても、改めて分析し、学校としての取組を協議していきましょう。



研究主任

※分析の視点は、昨年度の通信No.8~10を参照してください。



通信QRコード

②児童生徒視点の例 児童生徒の自己調整力を高める

今年度の調査問題を児童生徒がもう一度解き直すことで、自分がどこにつまずいたのか気付くことができます。解き直しを行う際、学校の実態に応じて、児童生徒が解決する問題や解決方法を決めるなど**「学びを委ねる」ことで、自己調整力を高めることができます。**



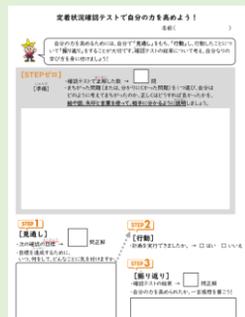
研究主任

今年度の研究テーマが「主体的に学ぶ子の育成」なので、子ども自身が課題だと思っている問題をもう一度解き直す機会を設定したいです。



学力向上

昨年度の学力定着状況確認テストで活用したワークシートが、今回も使えそうですね。今年度は、家庭学習の在り方についても考えていくことで、解決したい問題と解決方法を子どもが決められるようにしてみましょう。



※ワークシート等は〔別添〕を参照してください。